

スポーツの力

～する・みる・ささえる～

伊賀 FC くノ一三重を応援しよう!!

昨年11月から12月に開催されたFIFAワールドカップでは、日本代表の大活躍に日本中が大いに盛り上がりました。

今年は、「FIFA女子ワールドカップ2023」が7月から8月にかけてオーストラリアとニュージーランドで開催されます。すでに出場を決めている日本女子代表(なでしこジャパン)がどんな戦いをしてくれるか、今からワクワクしますね。

今回は、そんな日本女子サッカー界で活躍している「伊賀FCくノ一三重」をご紹介します。

チーム名に「伊賀」が入っている所以大家お気づきかと思いますが、ホームタウン(本拠地)は伊賀市。現在、なでしこリーグ1部(日本女子サッカー

リーグ)に所属し、2021年は初代チャンピオン、2022年は第2位と大活躍をしています。また、日本女子プロサッカーリーグ(WEリーグ)をめざして、日々練習に励んでいます。皆さんも伊賀市をホームタウンとして頑張る「伊賀FCくノ一三重」と一緒に応援しませんか。

3月19日(日)に「2023 プレナスなでしこリーグ(1部)」が開幕します。ぜひ会場の上野運動公園競技場へ出かけて応援しましょう。ホームゲームの日程、チケット購入など詳しくは、伊賀FCくノ一三重オフィシャルウェブサイトをご確認ください。



【問い合わせ】 スポーツ振興課
☎ 22-9635 FAX 22-9694
✉ sports@city.iga.lg.jp



明日に向かって ～差別をなくしていくために～

人権について考えるコラムです。

私たちに深く関係している部落解放運動 —寺田市民館—

以前、税務関係の所属で勤務していたとき、租税教室の講師として市内のある小学校の6年生の授業に出向きました。税の使い道・役割・仕組みなどについての学習の中で、一例として、教科書の裏表紙の「この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。」という一文を挙げ、日本の義務教育の教科書が税金によって無償で支給されていることを説明しました。

この「義務教育の教科書の無償化」は、部落解放運動の成果によるものです。かつて、教科書は有料で購入するものでしたが、昭和36年に高知県のある被差別部落の保護者たちが始めた教科書無償化運動が、全国の部落解放運動へと拡大し、その後、さまざまな団体などと連帯した運動の結果、昭和38年度から順次「義務教育教科書無償給与制度」が全

国に広まりました。しかし、このことを知っている人の割合は、令和2年度実施の「人権問題に関する伊賀市民意識調査」では41.3%と、決して高くはありません。このほか、同じく部落解放運動の成果である「就職差別の撤廃」「身元調査の規制」についての認知度についても、同様でした。

一方、同調査では、過去5年間で「行政が同和地区の人にだけ特別な施策をするのは不公平だ」という話を聞いたことがあると回答した人は72.8%でした。その中でも、「そのとおりだと思った」と回答した人は全体で29.4%と、ねたみ意識による不公平感が根強い結果となっています。

同和対策事業は、部落解放運動が一因となり、国が部落問題の解決を「国民的課題」として行ったものです。部落問題の解決のため、部落解放運動全体を正しく知り、理解することが必要だと思います。

■ご意見などは人権政策課 ☎ 22-9683 FAX 22-9641 ✉ jinken-danjo@city.iga.lg.jp

伊賀市の文化財 145

観音提寺本堂・楼門 防災施設整備事業

鳥ヶ原にある観音提寺は、東大寺別当職にあった実忠が開基したと言われ、正月に東大寺で行われる修正会がこの寺でも行われたことから、正月堂とも言われています。本堂は桁行3間、梁間3間、入母屋造、檜皮葺です。外壁は朱塗りで、正面の向拝と呼ばれる屋根が前方に張り出した部分は明治16(1883)年に付加したものです。柱はすべて円柱で、四方に濡縁を巡らし、本堂正面各間に蓐格子を設けています。

中世後期の伽藍図である「観音提寺古絵図」には、本堂・楼門のほか多数の建物が描かれていることから、かつては多くの建物があつたことがわかりますが、織田信長の伊賀攻めにより大半が焼失したようです。本堂・楼門は戦乱をくぐり抜けた貴重な建物といえます。

楼門は桁行3間、梁間2間、屋根は入母屋造、檜皮葺で、柱はすべて円柱です。勾配が緩やかで軒端には著しい反りがあつて、荘重な造りとなっています。外側左右に金剛力士像二体を配し、内側左右に広目天立像、多聞天立像を安置しています。室町期楼門建築の優作とされ、観音

提寺本堂とともに国重要文化財となつています。

令和元年に発生した沖繩の首里城跡の火災などを契機に、文化財などの防火対策を一層推進することが求められています。地域で大切に守り伝えられてきた観音提寺本堂・楼門についても、自動火災報知設備の更新や、不審火などによる火災を早期に感知できる炎感知器の新設など防災施設等整備を、令和5年3月末の完成をめざし、工事を進めています。



観音提寺本堂・楼門

文化財課
☎ 22・9678
FAX 22・9667

IGAMONO セレクション No.35

【問い合わせ】 商工労働課 ☎ 22-9669 FAX 22-9695

冬の底冷えが厳しい伊賀盆地特有の風土から生み出された「純米大吟醸 半蔵 神の穂」。恵まれた自然条件を活用し、蔵人一同が心をついに酒造りに情熱を注いでいます。原材料の酒米は、三重県農業研究所の伊賀農業研究室で開発された酒造好適米品種「神の穂(かみのほ)」。



純米大吟醸 半蔵 神の穂



株式会社 大田酒造 大田 智洋さん

明治25年創業。現在の主要銘柄は、伊賀忍者・服部半蔵にちなんだ「半蔵」シリーズで展開しています。南部杜氏・藤井久光が昔ながらの手造りで仕込む酒造りが特長です。原料米は「伊賀産山田錦」や「伊賀産うこん錦」、三重県が開発した「神の穂」を積極的に使用して旨味ある酒造りをめざしています。「神の穂」シリー

ズは純米大吟醸、特別純米酒、生原酒など幅広いラインナップです。また昭和時代の木桶を使用した「木桶仕込み純米酒」を復活し、伝統酒文化を次世代につなげたいと取り組んでいます。酵母も三重県産酵母を多く使用しており、地域に根ざし、蔵の風土に合わせた酒造りに努めています。

